

不登校の子どもたちへ

トキョーコーヒー白石・高橋孝志さん

安心できる親子の居場所

宮城県白石市の県職員高橋孝志さん(54)は今年2月、不登校の子と親らが遊びや体験活動を通して交流する「トキョーコーヒー白石」の取り組みを始めたよ。親子が楽しみながら、安心して過ごせる居場所づくりが目的なんだって。

「親がニコツとすると、子どもも安心します」と高橋さん。おしゃべりしながら手を動かすと心が和らぎ、大人も子どもも落ち着ける温かい空間になっています。

◇ コーヒー店ではありません

「登校拒否」のアナグラム(文字を入れ替えてつくる言葉遊び)で、2022年に奈良県で始まり、全国約400カ所に広がっています。

高橋さんは月1回、白石市移住交流サポートセンターなどで開催しています。親子ら約10人が参加し、シソを植えて自家製ジュースを作ったり、アクリルスタンドを手作

りしたりしました。

活動の原点は、中学2年の長女(14)が小学4年のときに不登校になったことです。体調不良で学校に行けない日が徐々に増えましたが、はつきりした原因は分からず、妻の育子さん(50)も含め、親子3人で思い悩みました。

「暗闇の中を歩いているようにでした。今もそうですが、何が正解で、何が不正解か分かりませんでした」。こうした経験から「同じような悩みを抱える家族の力になりたい」と、始めたのがトキョー

ーコーヒー白石です。長女は今、白石市の学びの多様化学校「白石南小・白石南中(通称・白石きぼう学園)」に通い、活動にも協力しています。高橋さんは参加者の意見を取り入れながら、息の長い活動にするつもりです。「みんなが緩やかにつながり、安心できる場所になればいい」と願っています。

親子の居場所「トキョーコーヒー白石」を主宰(右から)高橋さん



支援者より

●ありのままの自分でOK おいしいものはおいしい! 面白いことは面白い! 悲しいときは悲しい! それが本当の自分です。そんな自分を取り戻せる場所は、

周りにはたくさんありますよ。(仙台市青葉区 ホームスクール運営 ここあるよ 64歳)

●つらくなったらBASEに「置かれた場所で咲こうとしなくていい。咲けそうな場所を一緒に探そう」

みんなのBASEはみんなの「心の安全基地」です。自分なり

に楽しく過ごせているなら大丈夫。あなたがつらくなって、もしおうちから出られないなら、BASEの扉をトントンしてみてください。おうちから出られないときはインスタグラムのDMでもお話できます。

(仙台市青葉区 みんなのBASE運営 瀬戸理音さん 49歳)

フリースクール



●学校以外の学びの場として学習支援や体験活動を実施する

学びの多様化学校

(不登校特例校)



●1人1人の成長や特性に合わせて学びを深める

きっと見つかるあなたの「居場所」

不登校の子を持つ「親の会」も各地で行われています。



どこに相談したらいいかわからなかった

うちの子どもも不登校なんです

プレーパーク



●子どもたちが伸び伸び遊べる場所。年れい、学区、地域に関係なく利用できる

学習支援



●勉強の遅れに悩む子どもをサポートする

宮城県内の子どもの居場所マップはこちらのQRコードから確認できます。(制作:多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク)



取材協力

- 一般社団法人フリースペース道(宮城県大崎市)
- 学校法人ろりぽっが学園(仙台市)
- 一般社団法人プレーワーカーズ(宮城県名取市)
- 相談・まなび塾(仙台市)